

主 題：敵であるサタンの敗北3

聖書箇所：ヨハネの黙示録 12章7-12節

創造の初めから患難時代の終わりまでに現われる七人の登場人物を見ています。すでに、「一人の女」、「大きな赤い竜」、「男の子」という三人の人物を見て来ました。「一人の女」はイスラエルのこと、「大きな赤い竜」はサタンのこと、そして、「男の子」とはキリストのことであると見ました。このような象徴をもってこの後何が起こるのか？そのことをみことばは私たちに教えています。

今日私たちが見るのは、第4番目の登場人物です。それが記されているのが、12章の7節から12節までです。

D. 天から落とされたサタン 7-12節

「12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。:10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。:12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」

この箇所には少なくとも三つのテーマがあります。

1. サタンとの戦い : 天における天使たちの戦い 7-9節
2. サタンの敗北 : 7b-9節
3. サタンの敗北への讃美と宣告 : 天での勝利の讃美と宣告 10-12節

順に見ていきましょう。

1. サタンとの戦い : 天における天使たちの戦い 7-9節

7節に「さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。」と書かれています。「良い天使たち」と「悪い天使たち」との戦いです。天使について、簡単ですが次のことを知っておいてください。

1) 天使

まず、「天使」ということばは「使者」を意味します。天使はどのような存在か？

(1) 神によって造られた被造物 : この世界も私たちも、そして、天使たちもすべて神によって造られました。詩篇148:2、5に「:2 主をほめたたえよ。すべての御使いよ。主をほめたたえよ。主の万軍よ。」「:5 彼らに【主】の名をほめたたえさせよ。主が命じて、彼らが造られた。」と書かれています。

(2) 天使はこの世界が造られる前に創造されていたと考えられる : ヨブ記の38章にすべてが造られたことが書かれています。38:7に「そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、神の子たちはみな喜び叫んだ。」とあります。天使たちが喜んだと言うのです。ですから、神がこの宇宙をお造りになったときに、天使たちはその創造のみわざを見て喜んだということです。神はすべての被造物を造る前にもうすでに天使を造っておられたのです。

(3) 全知ではない : すべてのことを知っているという全知ではないのです。全知のお方は神だけです。ただし、全知ではないけれど人間よりも知恵があります。憶えておられますか？イエスが悪霊につかれた人からその悪霊を追い出そうとしたとき、悪霊はこのように言いました。ルカ4:34「ああ、ナザレ人のイエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」と。人々はイエスがだれかが分かかっていませんでした。でも、悪霊はイエスがだれかを知っていました。ですから、私たち以上に、彼らには知恵があるということです。

(4) 全能ではない : 天使たちは全能ではありません。全能、すなわち、何でもできるということです。それができるのは神だけです。しかし、それでいながら、人間よりも力があります。ペテロはⅡペテロ2:11で「それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。」と書いています。

ですから、天使はこのような存在だと聖書は教えます。

2) 善い天使

善い天使としてここに挙げられている名前は「ミカエル」です。その呼び名が四つ挙げられています。

(1) 「御使いのかしら・長」のひとり : ユダ9節に「御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手をののしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるように」と言いました。」と書かれています。また、空中携拳のことが書かれている I テサロニケ4章、4:16に「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、」とあります。恐らく、この「御使いのかしら」と記されているのが「ミカエル」でしょう。ですから、空中再臨のときにもミカエルが出て来るのです。

(2) 第一の君の一人 : ダニエル10:13でそのように教えています。「ペルシヤの国の君が二十一日間、私に向かって立っていたが、そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、私は彼をペルシヤの王たちのところに残しておき、」と。つまり、天使たちの中で最も位の高い存在、そのひとりだと言います。レオン・モーリス師は「ミカエルは天の軍勢のリーダーである」と、そのような表現を使います。

(3) イスラエルの民の君 : 同じダニエル10:21には「しかし、真理の書に書かれていることを、あなたに知らせよう。あなたがたの君ミカエルのほかには、私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者はひとりもない。」と書かれています。「あなたがたの君ミカエル」、つまり、イスラエルの民の君であると言うのです。「君」ということばは私たちは余り使わないでしょう。英語なら「プリンス」です。イスラエルの民と特別な関係にある、神が選ばれたイスラエルの民の君であると言うのです。彼がしっかりとその民を導いているのです。

(4) イスラエルを守る大いなる君 : ダニエル12:1に「その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。」とあります。ミカエルがイスラエルに対してどのような働きをするのか?この箇所がそのことを教えています。「イスラエルを守る」と言います。ですから、ある人たちはこのミカエルは神を信じる人たちだと言います。特に、私たちはこの患難時代の様々な出来事を見て来ました。主イエス・キリストを信じる者がすべてキリストのもとに引き上げられた後、患難時代が起こります。その初めには地上にはだれ一人クリスチャンはいません。でも、7年間の患難時代の中に、あわれみ深い神は、神に逆らい続けて来た人の中からイエスを信じ、救いに与る者たちを起こしていかれます。イスラエル民族の中から14万4千人の人たちが出て来ることが記されていました。また、二人の証人によってキリストの福音が語られ、多くの者たちが福音を信じ救いに与ります。その人たちを神はちゃんと守られるのです。

前回、私たちが見たように、イスラエルは厳しいサタンからの迫害を逃れて荒野へと出て行きます。3年半の間、神は彼らを守り彼らを養うということが書かれていました。神はちゃんと神を愛する者たちを守ってくださるのです。間違いなく、この当時、このメッセージを聞いていた人たちの信仰は励まされたことでしょう。どんなときにも神は私たちとともにいてくださり、私たちを守ってくださると。

ミカエルはこのように、神を信じる人たちをサタンの攻撃から守る存在として、確かに、聖書の中に記されています。

3) 悪い天使

7節に「竜」ということばが出ています。9節には「巨大な竜」とあります。

(1) 竜の呼び名 : この「竜」に関する四つの呼び名がまたここに挙げられています。

(a) 悪魔 : 悪魔とは「中傷する、口の悪い、誹謗する、悪口を言う、非難する」という意味をもったことばです。私たちは教会に来る前から「悪魔」ということばを聞いていて、そのような存在を想像しますが、ことばの意味はこういう意味をもっているのです。だから、10節を見ると、それにふさわしい働きをしていることが書かれています。黙示録12:10「…私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」と。まさに、これが「悪魔」なのです。中傷するもの、誹謗するものです。10節で教えているのは「この竜は神の御前で日夜クリスチャンである私たちに訴えている」ということです。

「彼らは、また、彼女はこんな罪を犯しているではないですか?なぜ、あなたは彼らを受け入れるのですか?」と、クリスチャンだけでなく神をも非難するのです。だから、彼は「悪魔」と呼ばれるものだと言うのです。ですから、このことばがもつ意味はその存在の特徴を表わしているのです。

(b) サタン : 旧約聖書にはヘブライ語でも「サタン」とあります。黙示録に書かれている「サタン」はこの旧約の「サタン」の音訳なのです。このことばの意味は「敵」です。旧約聖書にこのことばは18回出て来ます。そのうちの14回はヨブ記に記されています。ヨブ記はこのサタンが神の前に出

てヨブを訴えるからです。

(c) **全世界を惑わす** : つまり、誤った道へと進んでいくように惑わし続ける存在です。人々を間違った道へと惑わすのです。皆さんに思い出していただきたいのは、イエスを信じたと言ったユダヤ人たちにイエスが言われたことです。ヨハネ 8 : 44 「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」と、「悪魔」についてその特徴を「彼は偽り者であり、また偽りの父である」と表現しています。つまり、その特徴は「嘘をつく」ということです。

そうして人々を惑わすのです。パウロはそのことを次のように教えています。Ⅱコリント 11 : 14 「しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。」と。ですから、皆さん、気を付けなければいけないということです。私たちはいろいろな現象を見るかもしれませんが、でも、それが神からのものかどうかを調べてみる必要があります。サタンも同じことをします。善い天使のように変装して人々を惑わします、それは彼にとって最もふさわしい行為です。彼が喜んで為すわざです。

ですから、パウロはテモテに送った手紙の中で警告を発しています。Ⅰテモテ 4 : 1 「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」と。とても恐ろしいことです。このような働きが悪霊によって為され続けているからです。世の終わりになるほどに、そのような働きはなお活発化するというのです。サタンも、それに従う悪霊たちも、あらゆる方法を講じて人々を惑わすと言うのです。そのような働きが教会の中にも入って来ます。人々を惑わして信仰から外れていくように、みことばの教えから外れていくようにと。私たちがいろいろなことを体験することが好きです。体験した人にとってそれはすごい確信です。「私はこういうことを体験した！」と。問題は、それが本当に聖書の教えに沿ったものかどうかです。私たちの信仰の土台は聖書です。私たちが何を見たとか、何を聞いたか、何を体験したかではありません。神が何を言われたか？です。

みことばが教えているのは、世が終わりになるほどに惑わす者たちが様々なことを用いて人々を惑わし続けるということです。キリスト教会にもいろいろなムーブメントがあります。いろいろな「はやり」があります。いろいろなことがいろいろな国から入って来ます。私たちにはそれが本当に聖書に基づいたものかどうかを探る必要があります。こうして、みことばは警告を与えています。「後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」と。なぜ、そのようなものか？みことばの土台がないからです。

サタンはこうして全世界を惑わす存在だと言います。

(d) **古い蛇** : この表現を聞いて皆さんが連想するのは、創世記 3 章に書かれていることではありませんか？エバが蛇によって誘惑されたこと、サタンは非常に巧妙にエバのうちに働きエバを誘惑しました。そして、エバが罪を犯すように、同じように、アダムが罪を犯すようにと誘惑しました。彼の戦略は皆さんご存じですね。神のことばに疑いを抱かせることから始めます。創世記 3 : 1 「さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」と。

そして、それに乗ったならサタンには簡単です。次にサタンがすることは「神を疑うこと」です。そのように働きます。3 : 2-5 「2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

このようにして神を疑うようにと仕向けるのです。その結果、エバは、アダムは罪を犯したのです。パウロはⅡコリント 11 : 14 でそのことについてこのように言っています。「3 しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。」「蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがた自身も同じようなことにならないようにと言うのです。

今、私たちはこの「巨大な竜」と呼ばれる存在の四つの異なった呼び名を見て来ました。「悪魔」であり「サタン」であり「惑わすもの」であり、あの「古い蛇」であると。

(2) **サタンの妨げ** : サタンがいったい何をしたいのか？何をしようとしているのか？今の説明だけでもよく分かりますが、サタンの策略を知っていただくために、サタンの四つの妨げを説明します。

(a) **福音宣教を妨げる** : 使徒の働き 13 章に「エルマ」という一人の魔術師のことが書かれています。この人物はパウロたちに反対をして、パウロたちを通して福音を聞いた総督を信仰の道から遠ざ

けようと思いました。13:8-10「:8 ところが、魔術師エルマ(エルマという名を訳すと魔術師)は、ふたりに反対して、総督を信仰の道から遠ざけようとした。:9 しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、:10 言った。「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。」と、未信者が救いのメッセージを聞いたときに、それを信じないようにと妨げるのです。

そのことはイエスご自身マタイ13章で言われました。13:19「御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。」、13:37-39「:37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。:38 畑はこの世界のこと、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。」、「悪い者」とはサタンです。サタンが望んでいることは、主イエス・キリストの救いに与っていない人が絶対にその救いに与らないことですから、そのようにと邪魔をし続けるのです。

では、人が救いに与らないのはサタンのせいでしょうか？いいえ！！確かに、サタンはそのように働いて救いに至らないようにと妨げを為しますが、問題は、その人の罪です。その人自身の罪が神を拒み続けているのです。サタンのせいにできない、だれのせいにもできません。その人自身が自らの意志によって神を拒んでいるのです。だから、その人は神のさばきを受けるのです。

(b) 教会を罪によって世俗化する : 教会の中に様々な罪を持ち込んで教会が証を失ってしまうのです。パウロは1コリント5:13で「外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。」と言っています。つまり、教会が神に喜ばれる状態を保つために罪を除いていきなさいと言うのです。罪が教会に入り込んで来るなら教会が汚染されてしまうということです。

(c) 人を苦しめる : これはサタンの働きです。使徒10:38「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」、注意していただきたいのは「悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」という箇所です。この「制せられて」という動詞は「押さえ付ける、圧迫する、ある人を支配する」という意味で、また、このことばには「ゆううつにする」という意味もあります。マッカーサー先生は「このことばには人間のあらゆる病気が含まれる」と説明しています。肉体的なことも精神的なこともあります。悪霊によってそのようなことを経験する人たちがいるということです。だから、主はそのような人を「いやされた」、解放したということです。

もちろん、すべての病がそうだと断言しているわけではありません。そのようなことを経験している人が確かに聖書の中にも出て来ます。サタンはこうして人々を苦しめるのです。そのきっかけがその人にあるかもしれませんが、私たちはすでに学んだように、悪魔を侮ってはならないのです。大変恐ろしい存在です。私たちが占いとかが、悪魔が関与しているものに心奪われてその深みにどんどん嵌っていくなら、悪魔の影響を受ける可能性が大きくなります。もし、あなたがクリスチャンでなければ、あなた自身が悪霊の影響を受けて悪霊に憑かれるようなことがあります。それほど恐ろしい存在なのです。

少なくとも、「悪魔に制せられる」、悪魔の力、悪魔の働きによって苦しんでいた人たちがいたことが、使徒の働きの中に見られます。サタンはそのような働きをするのです。

(d) 国々への影響 : サタンは様々な国にいろいろな悪い影響を及ぼします。ダニエル10:12-13をご覧ください。「:12 彼は私に言った。「恐れるな。ダニエル。あなたが心を定めて悟ろうとし、あなたの神の前でへりくだろうと決めたその初めの日から、あなたのことばは聞かれているからだ。私に来たのは、あなたのことばのためだ。」と12節の初めに「彼は私に言った。」とありますが、この「私」はダニエルのことです。では、ダニエルに語っているのはだれか？文脈を見ると、9:21に「すなわち、私がまだ祈って語っているとき、私が初めに幻の中で見たあの人、ガブリエルが、夕方ささげ物をささげるころ、すばやく飛んで来て、私に近づき、」とガブリエルという名が出て来ます。これは「善い天使」のひとりです。主イエス・キリストの降誕のときにもガブリエルは出て来ます。ですから、10:12ではこのガブリエルがダニエルに話していることが分かります。

13節「ペルシャの国の君が二十一日間、私に向かって立っていたが、そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、私は彼をペルシャの王たちのところに残しておき、」、何を言っているのか？つまり、ガブリエルが為そうとしている働きを「ペルシャの国の君が」妨げたということです。そして、「そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、」と、ガブリエルにはこの助けが必要だったのです。ミカエルが助けに来てくれたと言います。

この「ペルシャの国の君」とは人間のことでありません。最初に見たように、人間はサタンに、また、天使に打ち勝つことはできません。そうすると、この「ペルシャの国の君」とはサタン自身か、あるいは、サタンの手下の悪霊たち、しかも、その中でも位の高いものだろうと言われていています。サタンは「この

世の君、この世の神」と呼ばれています。そのサタンはこの世に存在する王国の上に彼の手下を配しています。ですから、「ペルシヤの国の君」とはペルシヤに任命されたサタン自身か、サタンの代表か？いずれにしろ悪霊のことです。

この悪霊が何をしたのか？ダニエルにメッセージを届けるというガブリエルの働きを邪魔したのです。「私が来たのは、あなたのことばのためだ。」と10：12に書かれています。祈りを聞かれたゆえに、神がメッセージをもってガブリエルを送ったのです。しかし、21日間、ミカエルが助けてくれるまで、その働きはサタンによって阻止されていたということです。10：20には「そこで、彼は言った。「私が、なぜあなたのところに来たかを知っているか。今は、ペルシヤの君と戦うために帰って行く。私が出かけると、見よ、ギリシヤの君がやって来る。」と書かれています。「ギリシヤの君」、ペルシヤだけでなく「ギリシヤの君」もやって来るのです。

こうして、サタンは様々な国にあって大変な影響力をもっているということです。もちろん、神がよしとしてそのようなリーダーを立てられるのですが、大変な悪を行なう国々が存在していることは私たちもよく知っています。この箇所が私たちに教えていることは、サタンの働きの中にこのような働きもあるということです。この世の神であるサタンは様々な国のリーダーたちに働いて、神に逆らうことを行なわせ続けるのです。

2. サタンの敗北 7b-9節

さて、黙示録12章に戻って、7節の後半から9節に「サタンの敗北」が記されています。

1) 「善い天使・ミカエル」と「悪い天使・サタン」の戦い

この戦いは今回が初めてではありません。これまでもこの戦いはありました。

*これまでの「ミカエルとサタン」の戦い

実は、ユダの手紙9節に、モーセのからだに関して二人が戦っている様子が書かれています。ユダ9「御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手をののしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるように」と言いました。」とあります。サタンが神の前に罪を犯して墮落してから、イザヤ書14章やエゼキエル書28章に書かれています。それ以降、サタンは神のみこころに逆らい続けています。そして、ユダが教えているのは、モーセのからだに関して、サタンとミカエルが争ったということです。詳しいことは分かりませんが、恐らく、サタンはある計画をもってモーセのからだを使おうとしたのでしょう。それ以上のことは分かりません。私たちが知っているのは、モーセのからだはペテ・ペオルの近くに葬られているということです。そのことは申命記34：6に書かれています。「主は彼をペテ・ペオルの近くのモアブの地の谷に葬られたが、…」と、その後「今日に至るまで、その墓を知った者はいない。」と書かれていますので、サタンは巧妙にモーセのからだを使って彼自身の計画を成し遂げようとした。それをミカエルが止めるのです。そして、サタンはその計画を果たせなかったのです。

いずれにせよ、ミカエルとサタンの戦いは初めてではなかった、このようなことがあったと聖書に記されているのです。

2) 竜の敗北

7b-8節「…それで、竜とその使いたちは応戦したが、：8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。」

*この出来事はいつ起こるのか？それは患難時代です

なぜか？12節の後半を見てください。「…悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」つまり、サタン自身も自分のいのちが、自分の活動できる時が非常に短いことを知って、大変な怒りをもっていると言うのです。患難時代にあつて、大患難と言われる後半の3年半が終わると何が起こるのか？主イエス・キリストは地上に帰って来られ地上に千年の王国を築かれます。その千年間、サタンは閉じ込められます。そして、千年の後解放されて神のさばきを受けて永遠の地獄に落とされるのです。だから、サタン自身もそのことを十分に分かっているのです。ですから、この出来事が起こるのは患難時代の特に後半でしょう。

8節に「天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。」とあります。これは先に10節で見ましたが、サタンは日夜クリスチャンたちを訴えるために神の前に出ていましたが、彼はそこから投げ落とされるのです。つまり、もう神の前に立つことができなくなるのです。このときまでサタンは神の前に自由に立つて訴えることが許されていましたが、この出来事後、彼が投げ落とされることによって、二度と神の前に立つことが許されなくなったのです。

3) 天からの追放

9節には「投げ落とされた」ということばが3回出て来ています。「こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の

使いどもも彼とともに投げ落とされた。」と。「投げ落とされた。…投げ落とされ、」とこの二つ動詞は単数です。サタンのことだからです。三つ目の「投げ落とされた。」は複数です。「彼の使いどもも」とあるからです。しかも、この三つの動詞の時制は不定過去が使われています。これから起こることなのに過去形を使っているのは、その理由は皆さん覚えておられるでしょう？確実に起こることだからです。このときにはまだ起こっていないのです。でも、確実に起こることだから不定過去を使って記したのです。

この結果何が起こるのか？第一の天が存在します。この大空です。第二の天は宇宙です。第三の天は神が臨在されるところです。サタンと悪霊たちはこの第三の天に行くことが出来なくなったのです。彼らの行動は第一の天と第二の天に限られるのです。このことをみことばは私たちに教えてくれます。

なぜ、この後、人々が神を誉め称えるのかが分かります。サタンはこれまで必死になって信仰者のことを訴えて来ましたが、それが出来なくなったのです。最後は近づいているのです。正義が打ち勝つそのときが近づいているということです。

3. サタンの敗北への讚美と宣告 10-12節

天での勝利の讚美と宣告です。10-12節「:10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。:12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」、

1) 宣告の主

いったい、だれの声なのか？詳しいことは記されていませんが、恐らく、これは天使ではなくて、天にいるもうすでに救われた者たちでしょう。なぜなら、その内容を見ると分かります。

2) 宣告の理由

彼らは何を讚美しているのか？それは、サタンが遂に天から投げ落とされ神の力が現わされたからです。そのことを喜んでいます。

3) 宣告の内容

(1) 神の御力が現わされた : 一つ目は「神の救い」、二つ目は「神の力」、三つ目は「神の国」、そして、四つ目は「神のキリストの権威」です。四つのことを簡単に見ましょう。

- ・ 神の救い : 罪の赦しのことではなく、神のご計画が成就するということです。
- ・ 神の力 : 神の敵に対する全能なる神の御力のことです。どんな敵でも神は打ち負かされます。
- ・ 神の国 : これは千年王国のことです。
- ・ 神のキリストの権威 : このすべてのことを神はご自身の権威によって為されるということです。

だから、神を称えるのです。神のご計画が遂にこの地上に成される、敵を完全に打ち破られる、そして、千年王国を築かれる、これらのすべてのことを神はご自身の権威によって為されると言うのです。みことばをいくつか見ましょう。詩篇 2 : 8 「わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。」、マタイ 28 : 18 「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」、ヨハネ 17 : 2 「それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。」

こうして、その御力が現わされたことを誉め称えるのです。「私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」と、もうその働きが出来なくなったと言います。彼に残されているのは、神による最後の審判を待つことだけです。彼は千年の間底知れぬところに閉じ込められてその後永遠の火の池に投げ込まれるのです。黙示録 20 : 1 から教えることです。

(2) サタンに対する勝利

11節を見てください。「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」と。

- ・ 小羊の血 : これは「罪の赦し」のことです。神が与えてくださった完全な救いのことです。たとえ、サタンがどのように邪魔をしようと、神に選ばれた者たちはこの救いに与るのです。サタンがどのように、また、どれ位の頻度でクリスチャンたちを非難しようと、彼らは完全な救いをいただいたのです。彼らは勝利者です。小羊の血によって彼らは勝利者となったのです。そのことを誉め称えるのです。
- ・ 自分たちの証のことば : これは宣教のわざです。福音宣教をしたときにサタンはそれを邪魔しました。惑わすものとして真理をぼかしてそれを受け入れないようにと働きました。しかし、神のことばは常に勝利するのです。この福音のことばによって、罪人が罪から滅びから罪ののろいから救い出されるのです。サタンの欺きに対抗し人を救う力のことです。それゆえに、喜びなさいと言います。キリス

トの血によって罪赦された者たちよ、喜びなさいと。自分たちの証のことばのゆえに、サタンに打ち勝った者たち、どんなに邪魔をされようと、神のことばは生きていて力がありその働きを為すからです。

・死に至るまでもいのちを惜しまなかった : これは「死に直面した時でさえ彼らは自分のいのちを愛さなかった」という意味です。サタンがもたらす様々な誘惑や苦しみの中、この信仰者たちは忠実に主に従い続けたのです。特にこの患難時代には多くの者たちが殉教者としていのちを落としていきました。見ていただきたいのは「惜しまなかった」という動詞です。「惜しむ」という動詞はギリシャ語では「アガペー」、動詞ですから「アガパオー」を使っています。つまり、「神の愛」です。

信仰に至った彼らは大変な苦しみを受けたが、彼らは自分のいのちを愛するよりも神を愛したということです。ジョン・ワルブード師は「彼らはいたずらに殉教者の死を求めたのではないが、自分のいのちを尊いものとは考えなかったのである。彼らは死に至るまで忠実であれというスミルナの教会に対する教えに従ったのであり、また、ご自身のいのちを羊のために捨てられた主の模範に倣ったのである。主は喜んで罪人である私たちのためにいのちを捨ててくださった。彼らも喜んで主のために…。」と言っています。自分たちのいのちは神よりも尊いものではなかったのです。

だから、彼らは神を愛し、その結果、死に至ることがあったとしても、喜んで主に従い続けたのです。彼らはどれ程主を愛していたのか？そのことが分かります。

*彼らの神への愛は本物だった

Ⅰヨハネ4：7-11、16「7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」「16 私たちは、私たちに對する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のおにられます。」

Ⅰヨハネ5：1「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

(3) 勝利への歓喜

そこで12節「それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。」と、大変な迫害の中でも従い続けた者たち、喜びなさいと。なぜなら、そのように忠実に生きる者たちにはすばらしい神からの祝福があるからです。私たちは永遠のいのちをいただいた者として神に感謝を表わすことができるし、大変な戦いの中で敗北も多々経験して来たけれど、最終的に私たちは神が約束されたすばらしい救いに招かれたのです。だから、喜びなさい、主に忠実に生きることは決して無駄でない、そこにはすばらしい主の報いがあるから喜びなさいと。

(4) 災いの宣告

見てください。「しかし、…」と続きます。「地と海とには、わざわいが来る。」とあります。まだ最後まで、残されたごくわずかな時間、地上に残っているクリスチャンたちに警告があるのです。どんな警告か？「わざわいが来る。」、大変な迫害がやって来る、あなたがたは大変な苦しみを経験すると…。その理由がその後に書かれています。「悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」と。

・悪魔が自分の時の短いことを知り : 先にも話したように、サタンが自分の運命を知ったときです。

・激しく怒って : もっと多くの人を惑わして、もっと多くのクリスチャンたちを苦しめると、必死になって働くのです。

・そこに下った : 「そこ」とは直訳すると「あなた、あなたの人々」ということばです。そうしてサタンは地上にいるクリスチャンたちのところに下って、彼らを苦しめ、彼らを惑わすのです。だから、大変な迫害がやって来ると、そのことを警告するのです。でも、人々はだれ一人としてその迫害に遭いたくない、当然です。しかし、彼らは約束によって、その迫害の後はずばらしい永遠が約束されています。それが彼らの希望だったはずです。そこに彼らの目は向くはずです。しかも、私たちが見て来たように、神は決して信仰者を見捨てることはされません。ミカエルは彼らを守る存在です。

こうして神は私たちに、あなたが置かれている状況がどのようであっても心配しなくてもいい、あなたのことを知っているわたしが完璧な配慮をしているからと言われます。そうすると、私たちの責任は何か？主にお会いする時まで、しっかり働き続けることであり、主のみこころに従い続けることです。信仰者の皆さん、しっかりと立って、信仰者として悔いのない歩みをしていくことです。主にお会いするその日が近づいているから、そのような歩みをもって、「私は主を愛し、主にお会いするその日を待

望している」と、そのことを証する信仰者として歩み続けてください。

《考えましょう》

1. 天使ミカエルについて説明してください。
2. サタンの様々な呼び名は彼自身の特性にふさわしいものですが、それらを挙げてください。
3. 多くの信仰者たちが「死に至るまでもいのちを惜しまなかった」とありましたが、彼らがこのように生きることができたのはどうしてだと思いますか？
4. 「勝利者として生きること」はどのように生きることでしょう？
信仰の友と話し合っ、お互いがそのように歩めるように祈り合ってください。